ありがとうの花を咲かせよう

長久手市は令和４年１月で市制10周年

長久手市の
市民主体のまちづくり
について

R3.11

長久手市企画政策課

名前　金子　達也

生年月日　1987/12/1

生まれ　長久手

尊敬する人　コミュニティデザイナー
山崎　亮

育ち　長久手

相性のいい誕生日　1/13　6/6　9/3
9/18　9/24
10/3

経歴　高校卒業⇒浪人生活⇒大学入学⇒１年休学⇒
Ｈ２４市役所入庁（現在１０年目）
安心安全課→政策秘書課→経営企画課→厚労省派遣→企画政策課

目次

１．長久手市の概要

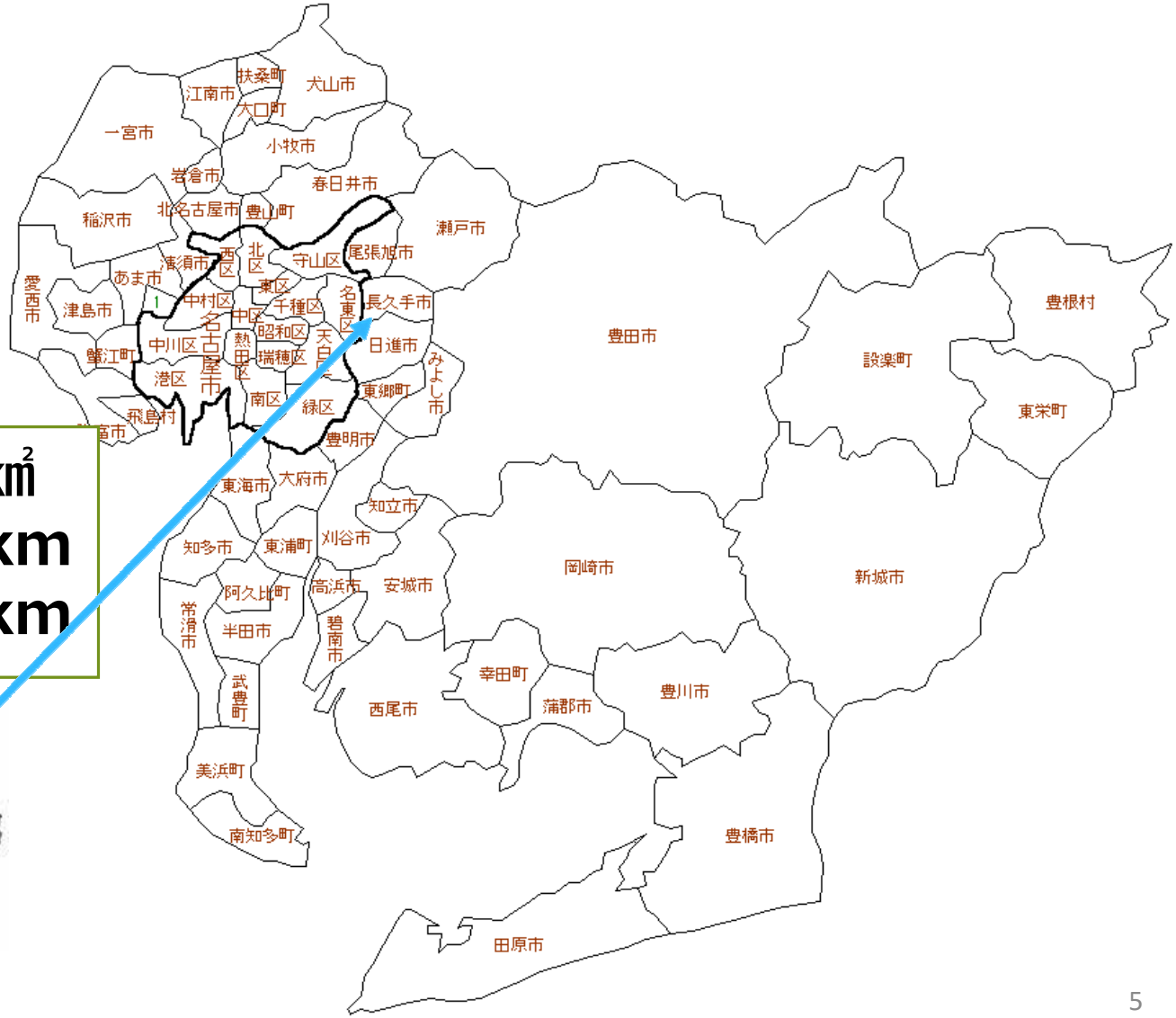
２．今後の課題

３．課題に対応するためのまちづくり

1．長久手市の概要

長久手市の概要

面積　21.55㎢
東西最長　約8km
南北最長　約4km



小牧・長久手の戦い（1584年）

色金山歴史公園

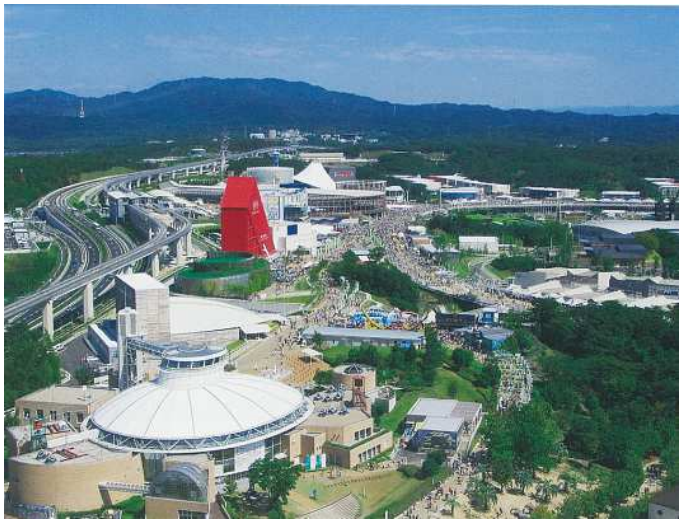
古戦場公園

安昌寺

首塚

血の池公園

愛知万博（2005年）

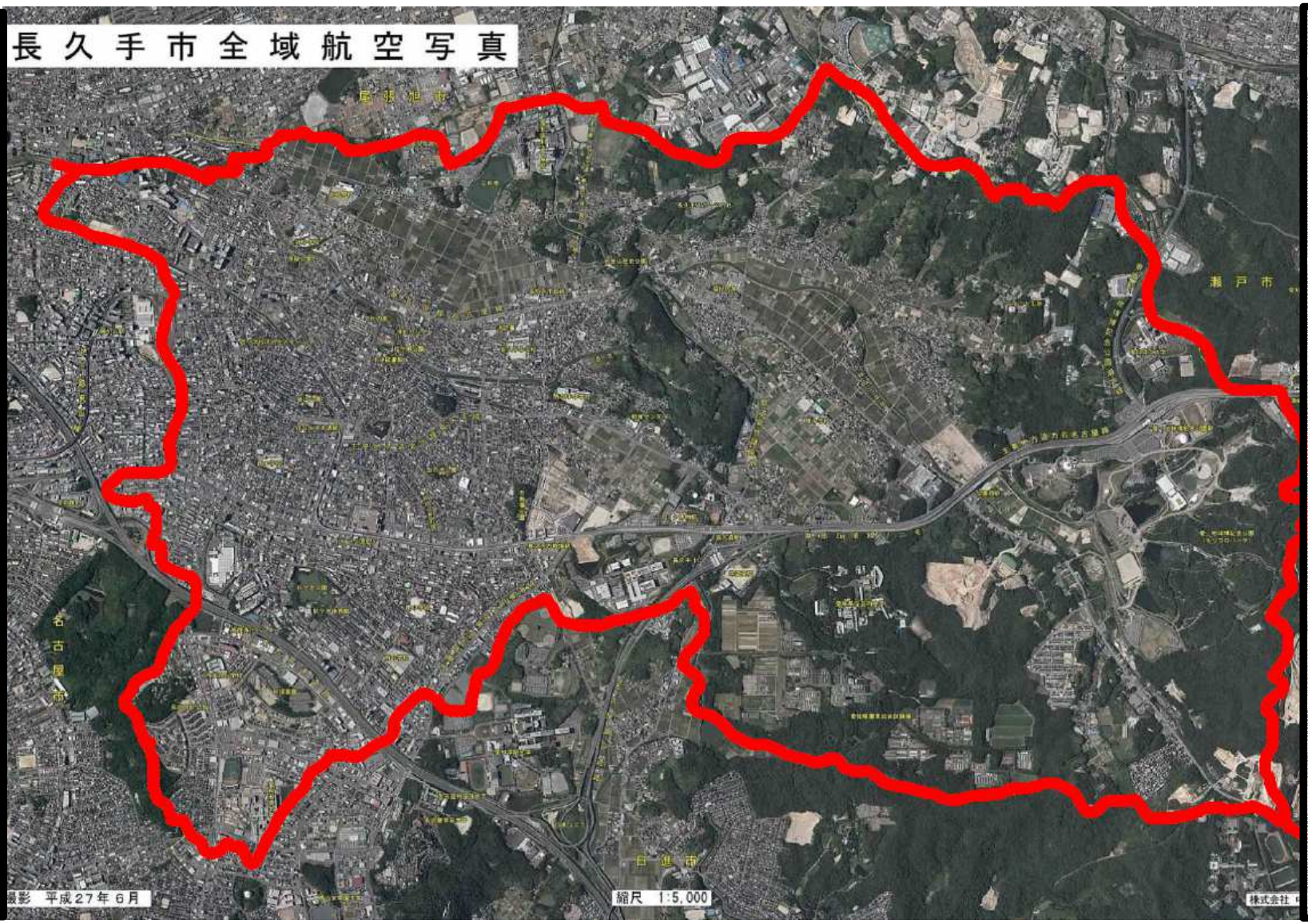


愛・地球博
EXPO 2005 AICHI JAPAN

長久手市の概要

上から見ると・・

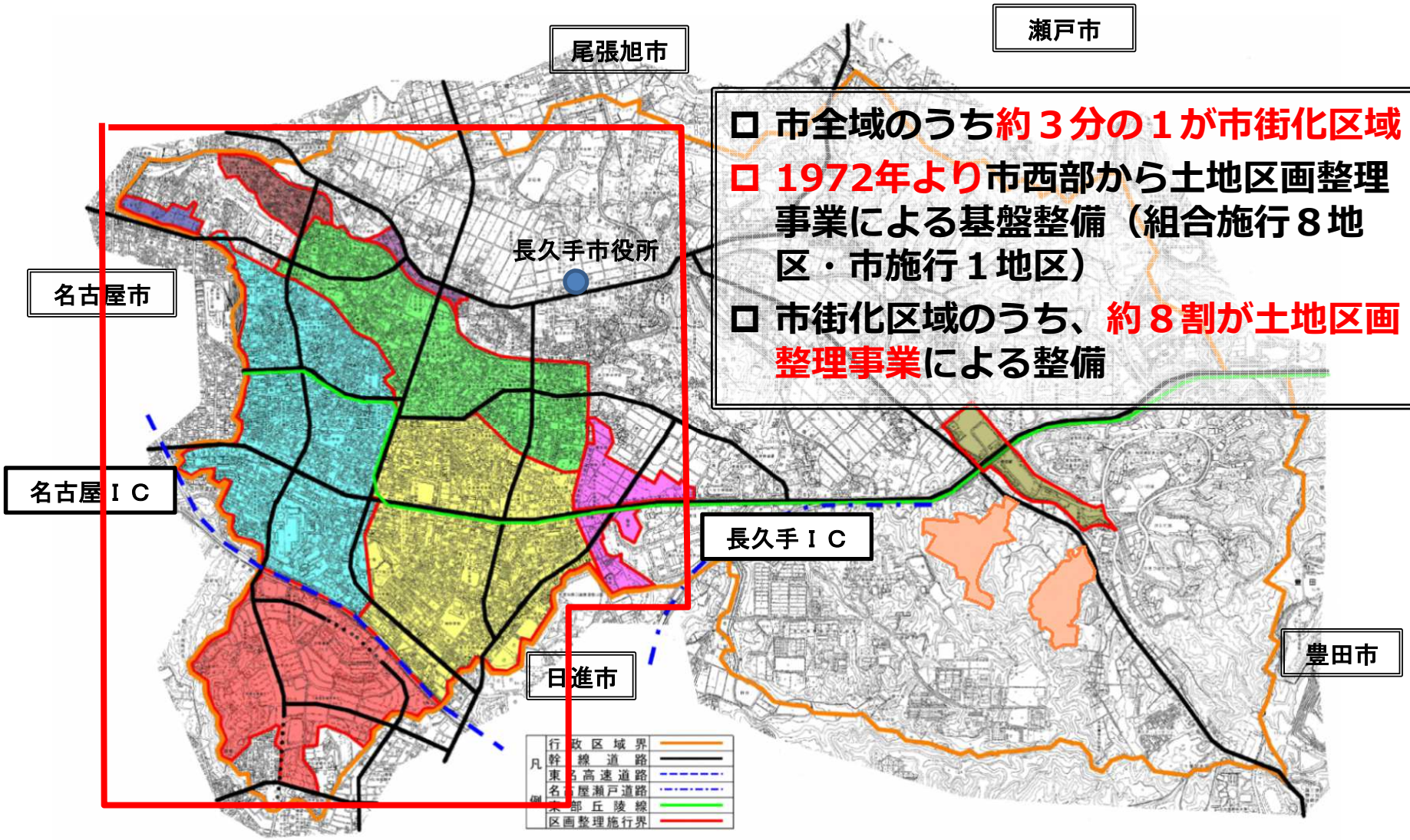
西部…市街化された都市



東部…自然豊かな田園

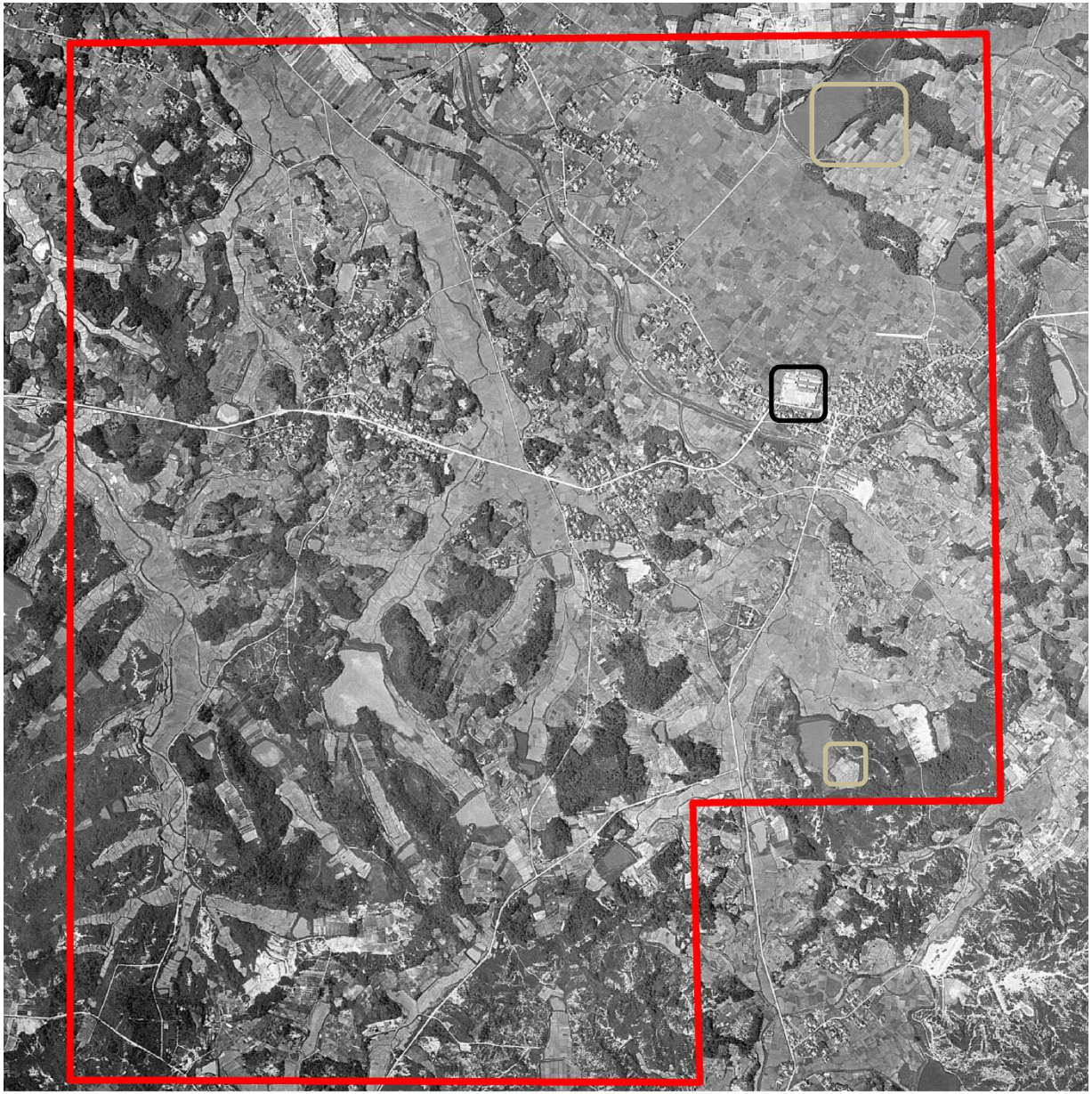
長久手市の概要

計画的な市街地整備（区画整理事業）



- 市全域のうち**約３分の１が市街化区域**
- **1972年より**市西部から土地区画整理事業による基盤整備（組合施行８地区・市施行１地区）
- 市街化区域のうち、**約８割が土地区画整理事業**による整備

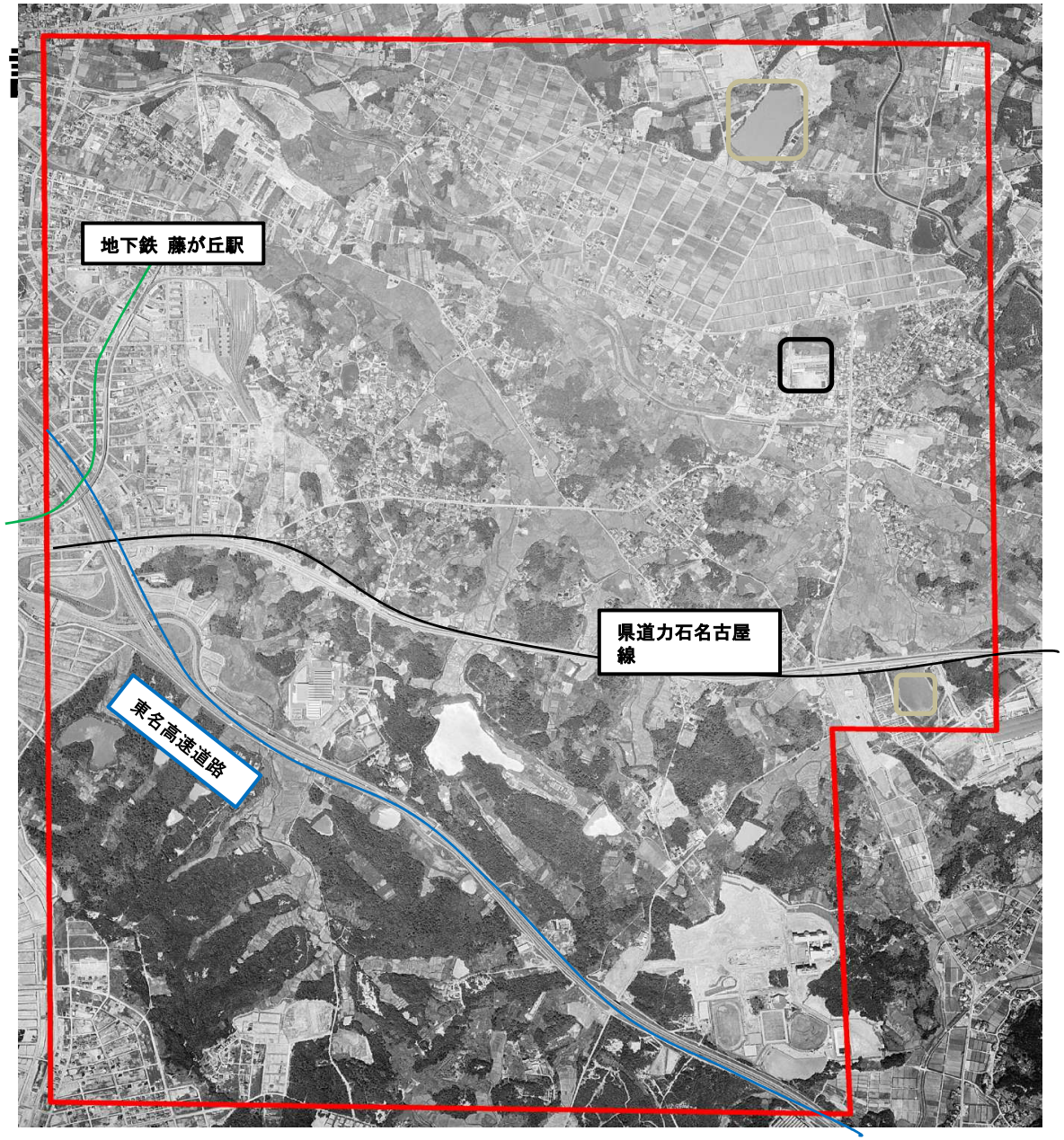
長久手市の概要



昭和３４年
(１９５９年)

名古屋市東部の丘陵地で、**農業を主産業として発展**

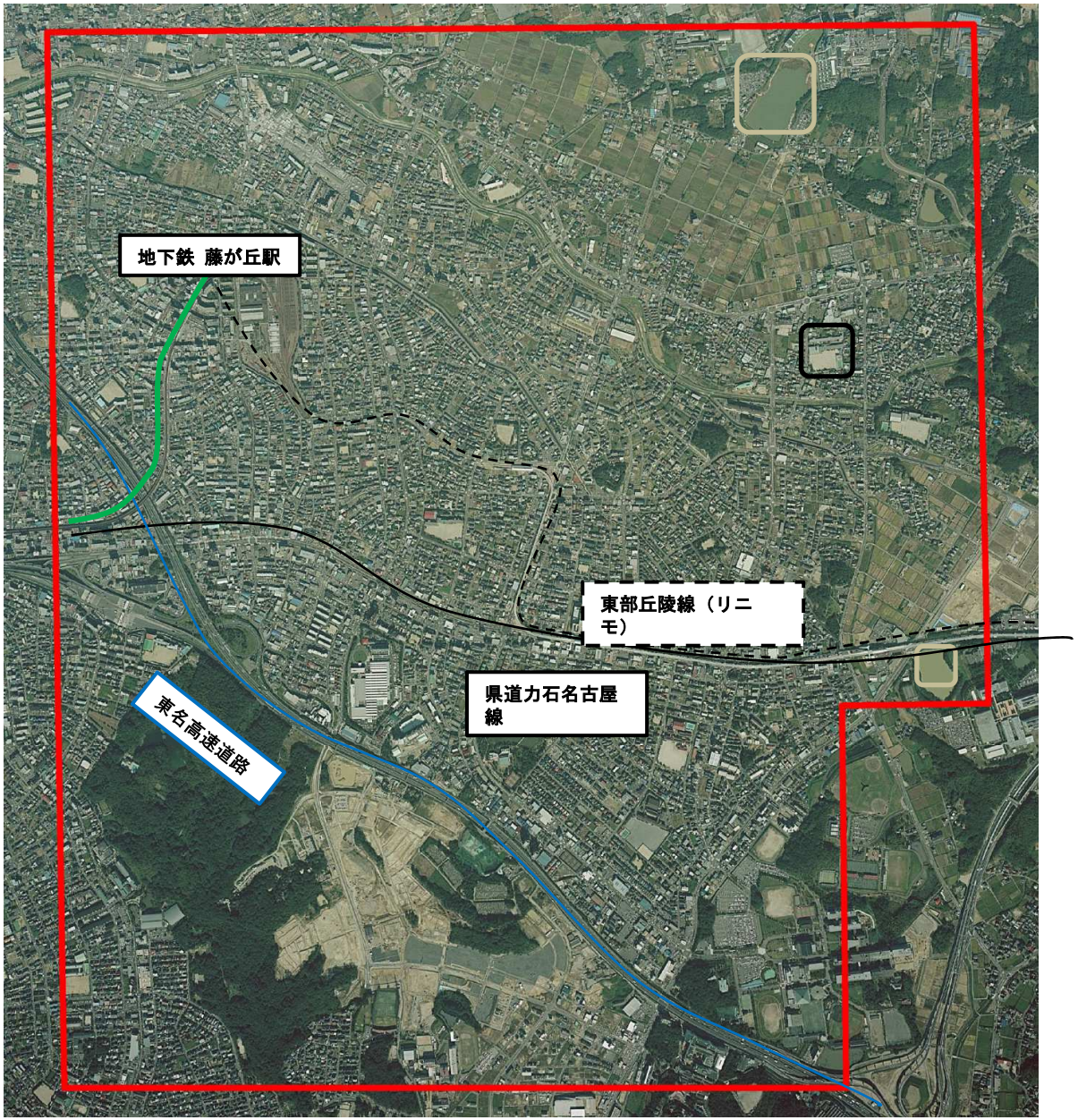
長久手市の概要



昭和４７年
(１９７２年)

県道力石名古屋線、
東名高速道路、
地下鉄藤が丘駅の開設等、経済の高度成長と相伴って、**市西部より都市化の波**

長久手市の概要



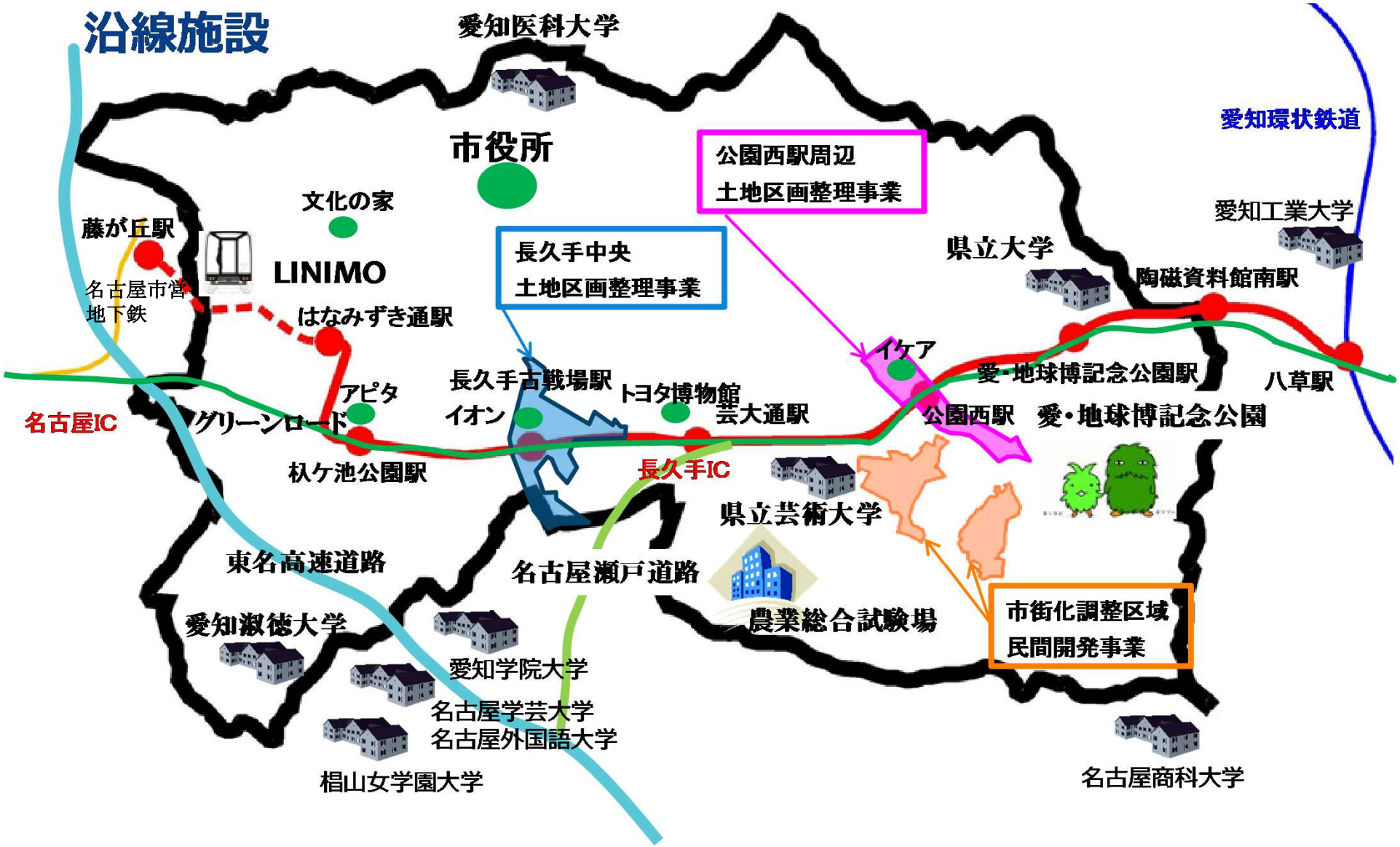
平成１６年
(２００４年)

計画的な新市街地を整備

長久手市の概要

リニモ沿線のまちづくり

市内4大学　周辺6大学

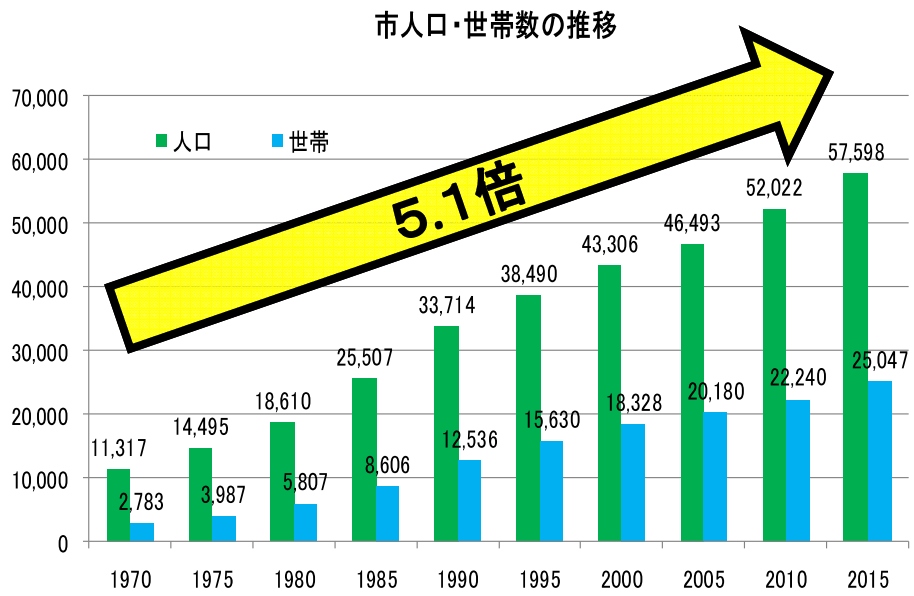


長久手市の概要

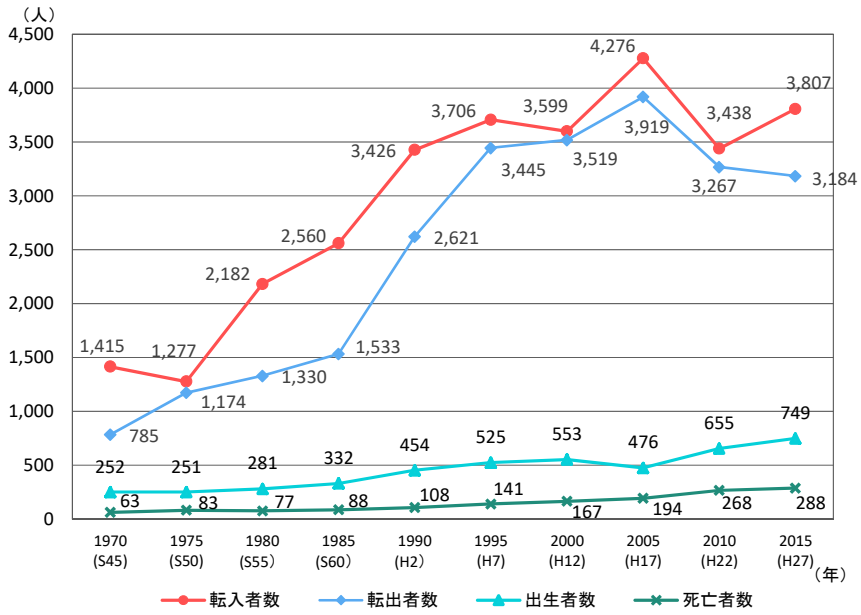
人　口　　６０，０３５人
世帯数　　２４,７２５世帯

（2021. 3. 31現在）

増加率
県内1位！
全国6位！



出典：国勢調査



資料：ながくての統計（市民課）

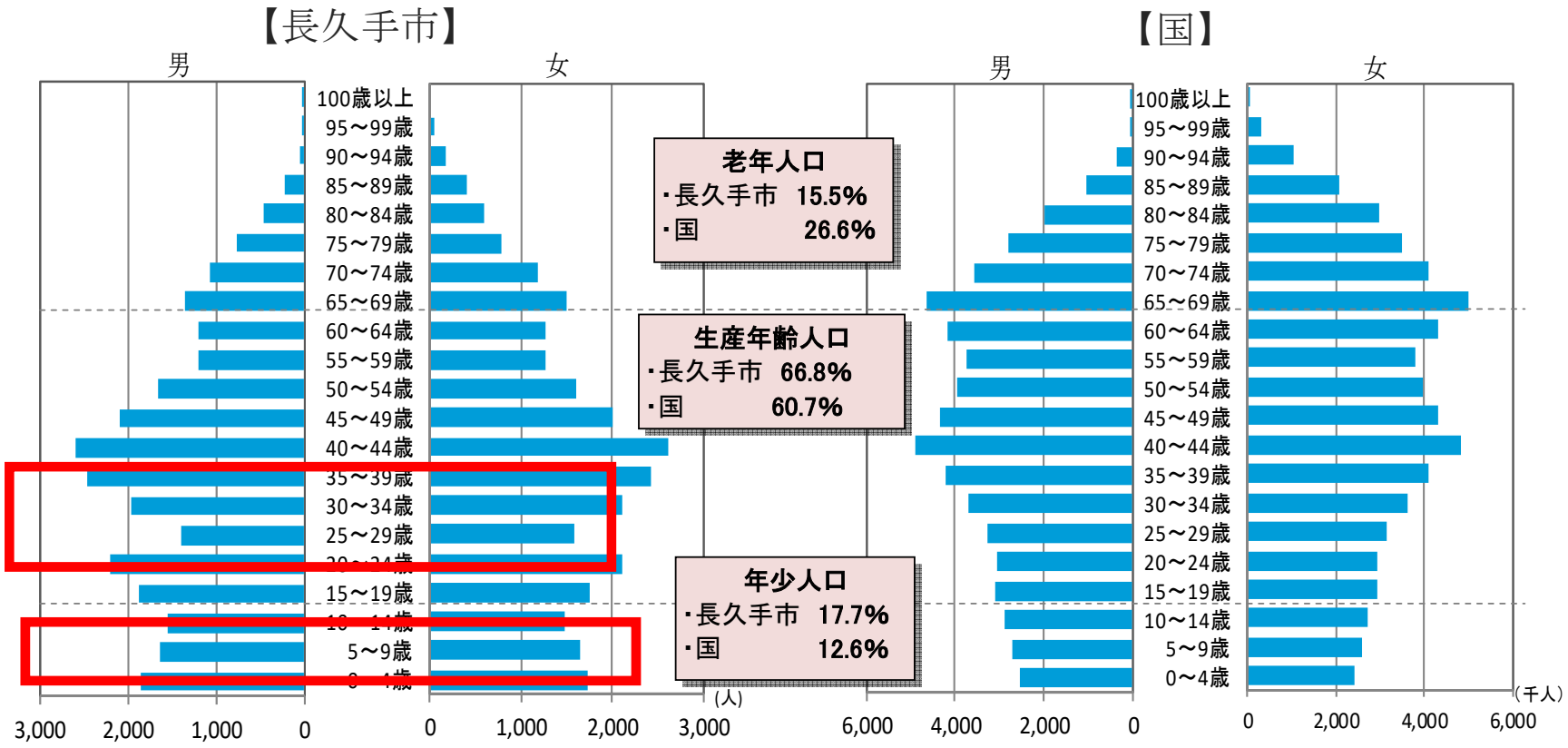
図４　自然増減と社会増減

転入者数、転出者数の推移（1970-2010）

出生者数、死亡者数の推移（1970-2010）

- **転入者数が転出者数を常に上回っている　　（継続的な社会増）**
- **出生者数が死亡者数を常に上回っている　（継続的な自然増）**

長久手市の概要



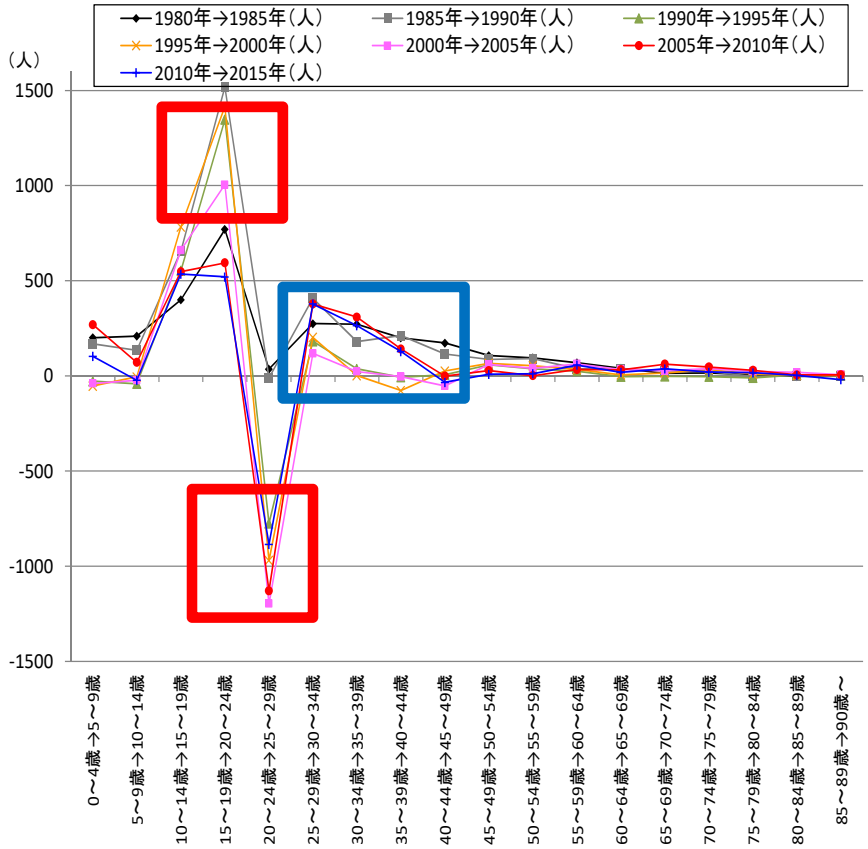
資料：国勢調査（H27）

図１　長久手市と国の人口ピラミッド（平成 27 年）

市平均年齢　　38.6歳

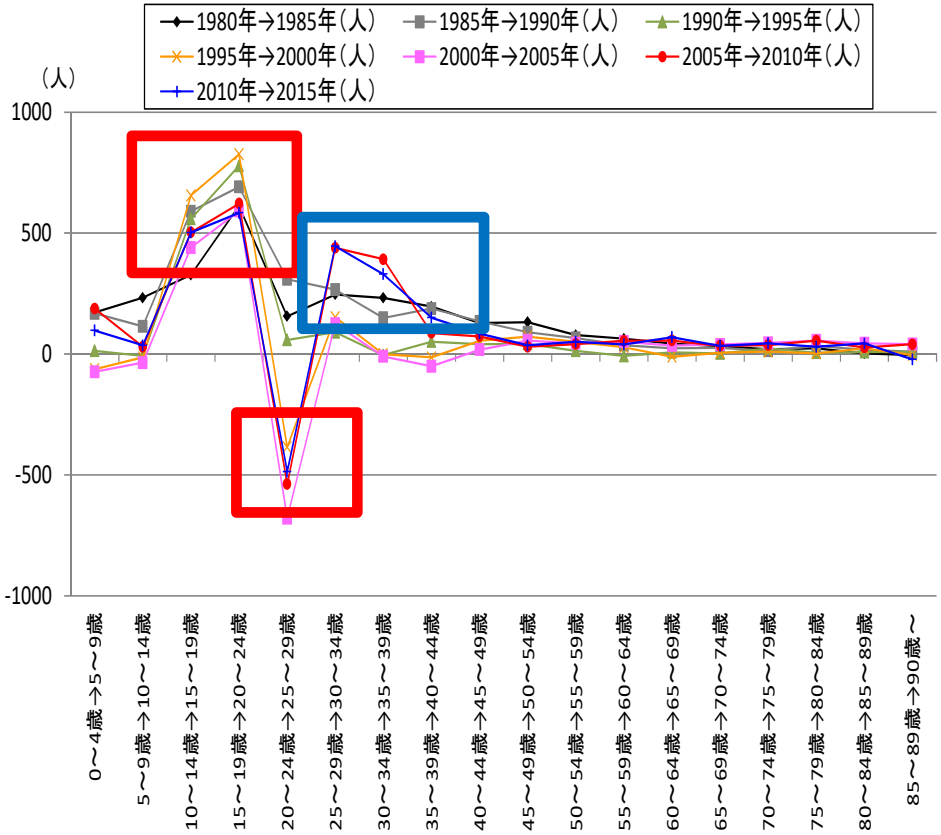
※参考　令和3年3月31日現在の指標
平均年齢　40．4歳　　高齢化率　16．7%

長久手市の概要



資料：国勢調査、総務省「住民基本台帳人口移動報告」

図７　年齢５階級別の純移動数の時系列変化（男性）



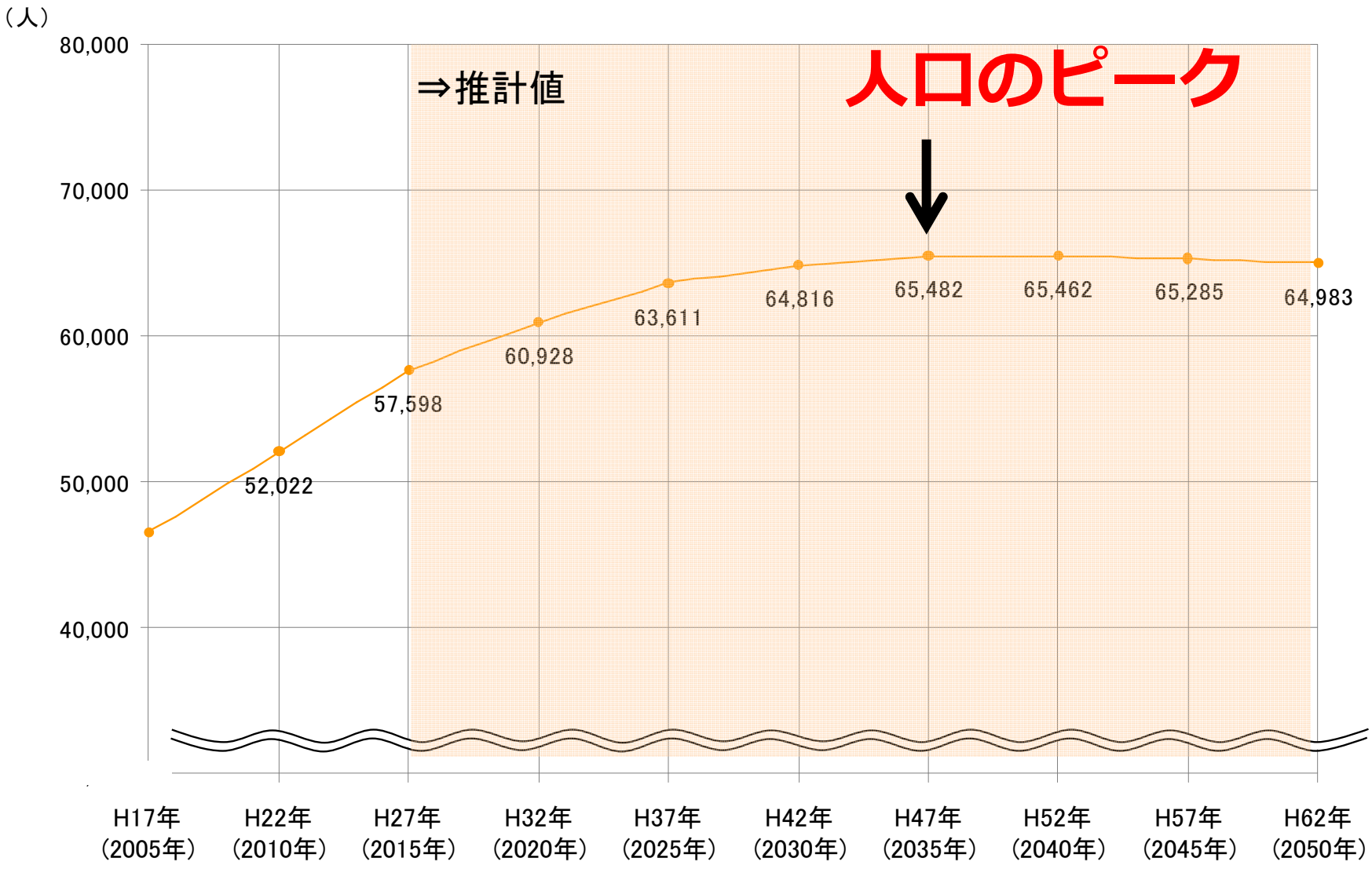
資料：国勢調査、総務省「住民基本台帳人口移動報告」

図８　年齢５階級別の純移動数の時系列変化（女性）

- **男女ともに20歳前後の転入と25歳前後の転出が多い。**
- **宅地供給の影響から、30～40歳代で転入超過となっている。**

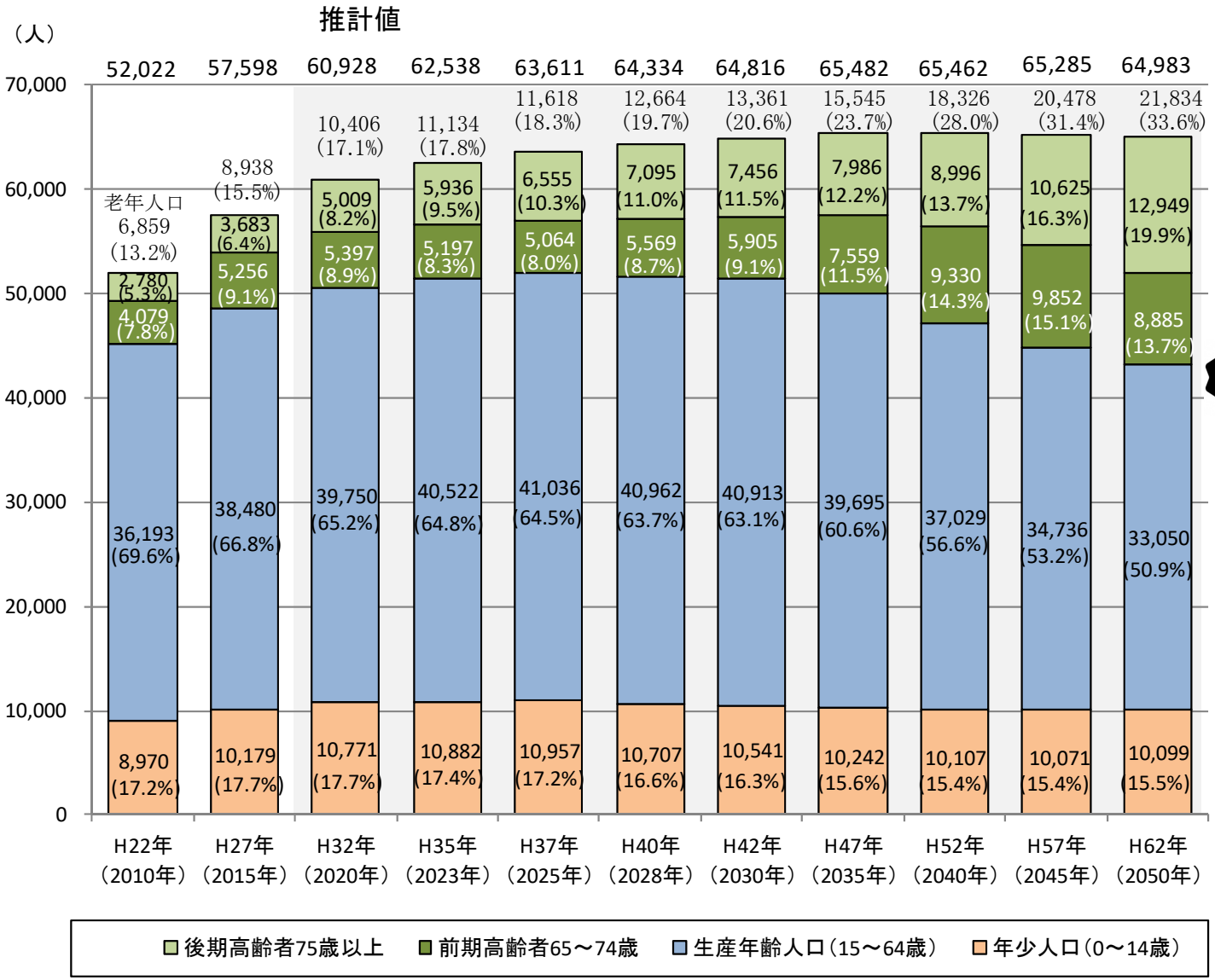
2. 今後の課題

今後の課題



出典：長久手市将来人口推計報告書

今後の課題



年齢３区分別人口推計

2015年→2050年

老年人口
9千人→2.2万人
16%→34%

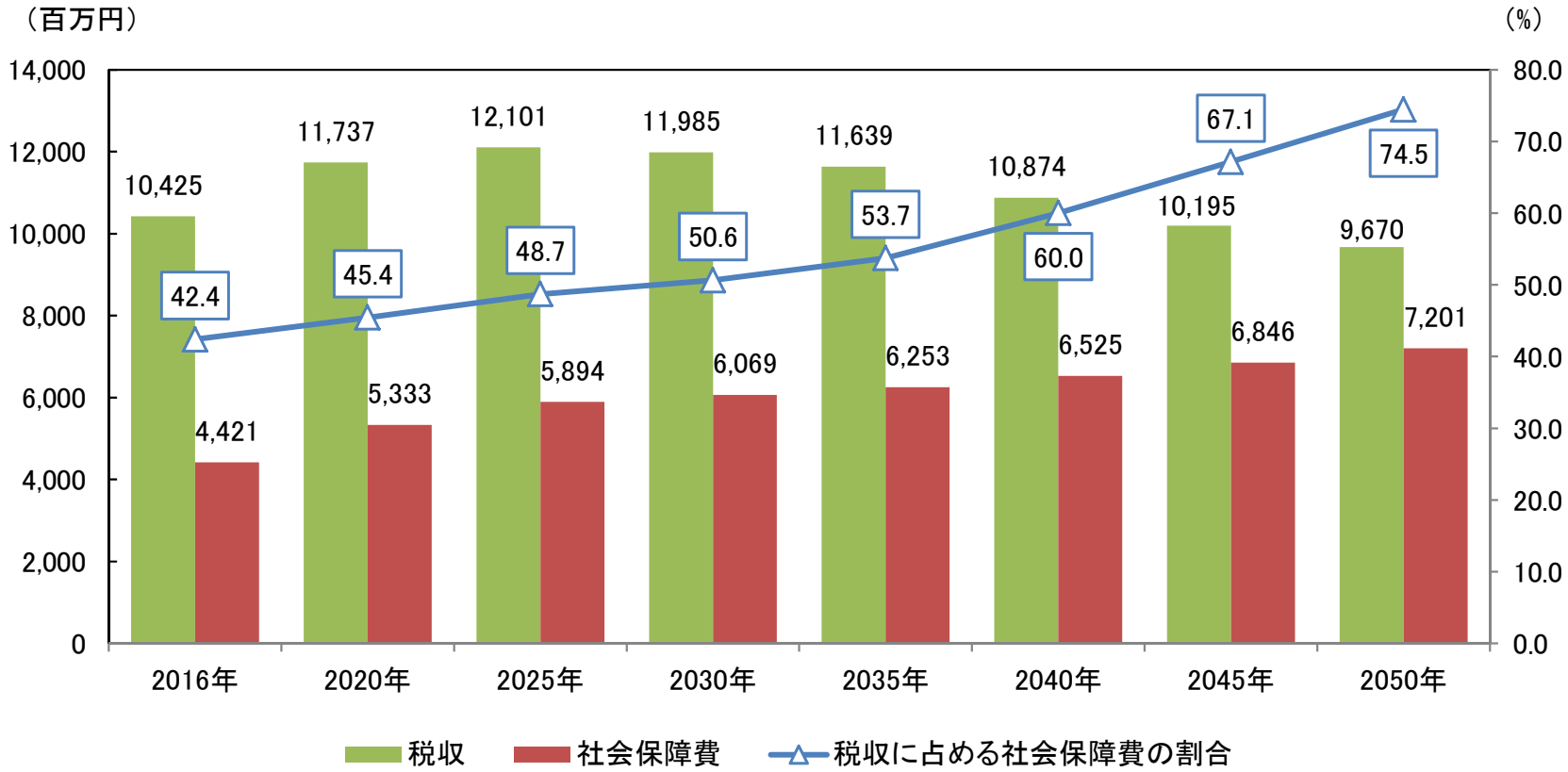
老年人口の割合が約２倍となる！

生産年齢人口
3.8万→3.3万人
67%→51%

年少人口
1万→1万人
18%→16%

今後の課題

税収及び社会保障費の推計



資料：2016（平成28）年・2020年は中期財政計画、2025年以降は中期財政計画を基に推計

※社会保障費は、児童手当・医療費等の扶助費、国民健康保険繰出金、介護保険繰出金、後期高齢者医療繰出金を表す。

税収額に占める社会保障費の割合は、

2050年には、約75%に!

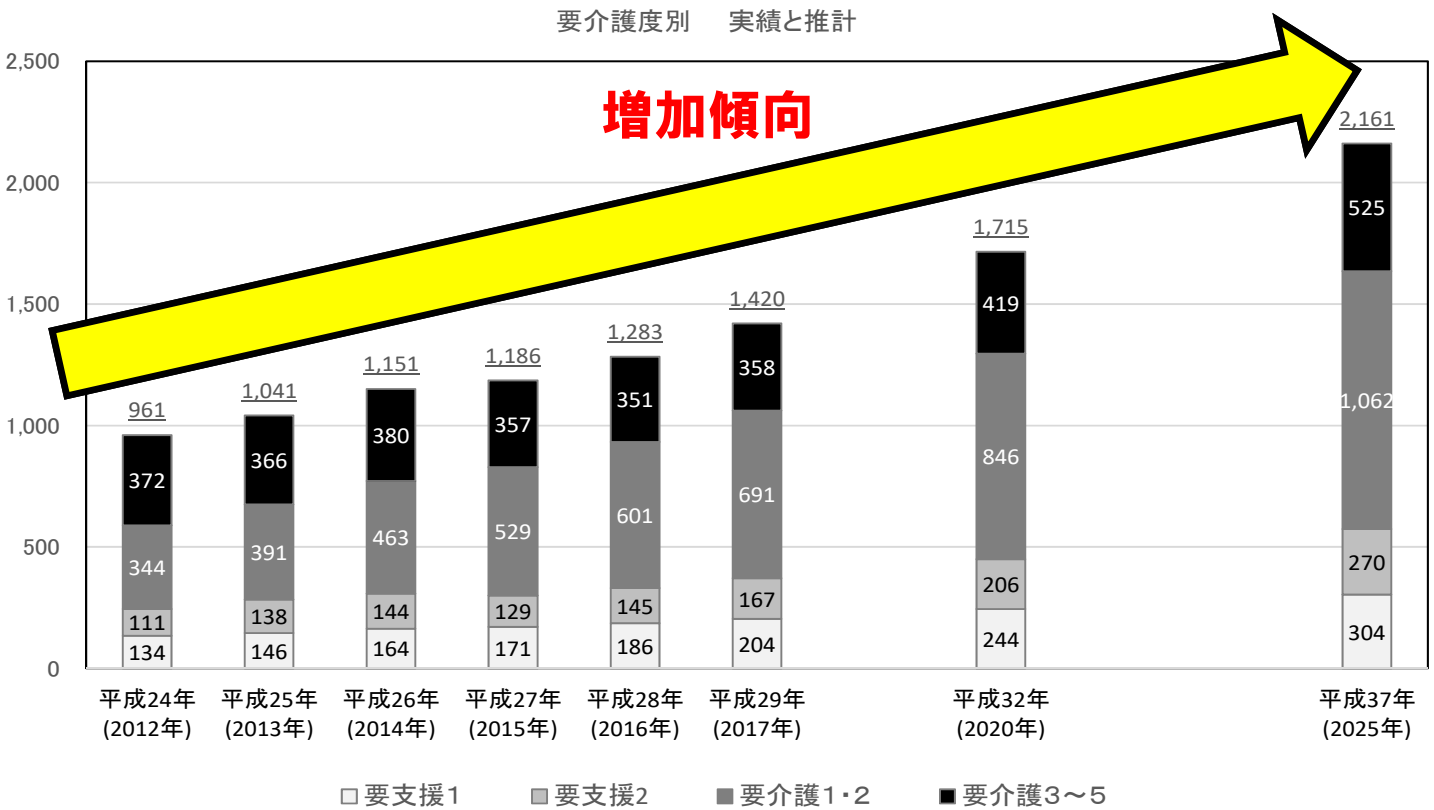
今後の課題

また、今後公共施設の維持管理に係る費用が増大する・・・

年間約10億円

今後の課題

高齢化が進むことによる問題は他にもあり・・・



資料：長久手市第7次高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画

○要支援・要介護認定者数は、増加傾向

○要支援・要介護認定者数が、このまま増加すると、２０５０年頃には４，０００人程度に達する可能性も！

○要支援１・２が介護保険の対象外となり、各市町村の負担が増加↗

今後の課題

高齢化が進むことによる問題は他にもあり・・・

老年人口が、約９，０００人（2015年）から、
約２２，０００人（2050年）に増加することにより

↓

本市の認知症患者数が、
約１，０００人（2015年）から
約３，０００人　（2050年）に増加する！

※老年人口の約１５％が認知症になると言われている。

今後の課題

高齢化が進むことによる問題は他にもあり・・・

県内一の人口増加率の陰で…

孤立死 長久手で相次ぐ

長久手市内で今年に入り、誰にもみとられず病気などで自宅で死亡しているのが発見される「孤立死」が四件あった。独り暮らしの高齢者が多く、死後三カ月ほどが経過していたケースも。県内一の人口増加率を誇り、高齢化とは縁遠いイメージの同市で何が起きているのか。（原田晋也）

今年既に4件 1人は死後3カ月経過

男性が孤立死していたアパートの一室。古い郵便物が残されたままになっていた＝長久手市内で

今年二月上旬、長久手市の県道沿いにあるアパートの一室で、独り暮らしの男性（76）が亡くなっているのが見つかった。異臭に気付いた管理会社が大家に連絡し、大家が通報したため発見された。

検視の結果によると、昨年十一月上旬ごろに病死したとみられる。その少し前に、高齢者見回りのボランティアが電話したときには、無事だったという。男性の部屋はワンルーム。自治会に未加入とみられ、親しく近所づきあいをしていた様子はない。

市内では今年、三月に男性（71）、四月に男性（58）、六月に女性（65）が死後半月～三カ月ほど後に発見されている。男性三人はいずれもアパート暮らし、転入してきたばかりで民生委員も存在を把握していない人もいた。女性は一戸建て住宅に住み自治会に加入していたが、回覧板は不要としていた。

伊藤泉・市福祉部長は「市には孤立死の統計はないが、一年で一件あるかないかだったと思う。これほど相次いだのは、転入や転出が多く地域のつながりが希薄になったからではないかと心配する。「日本一の福祉のまち」をうたう長久手市だが、市民の平均年齢が三十八歳。全人口のうち六十五歳以上が占める高齢化率は14・7%と、県平均の20・6%を大きく下回る。このため、独り暮らしのお年寄りを見守る雰囲気が後手に回った可能性がある。

鈴木孝美副市長は「長久手市で孤立死が相次いだことは正直に言ってショック。これまでほとんど対策をとってこなかったが、市全体で孤立死を防ぐ仕組みをつくっていきたい」と話す。

市は、七月から部や課をまたいで孤立死対策を考える会議を定期的に開く方針で、業務上異変に気付きやすい新聞販売店や郵便局に協力を求めることなども検討している。

特報館

転出入多く地域の縁希薄に？

長久手市内で今年見つかった孤立死の事例

亡くなった人	発見日	発見までの期間（推定）	住宅
男性（76）	2013年2月上旬	約3カ月	アパート
男性（71）	同3月上旬	約半月	アパート
男性（58）	同4月上旬	約半月	アパート
女性（65）	同6月下旬	捜査中	一戸建て

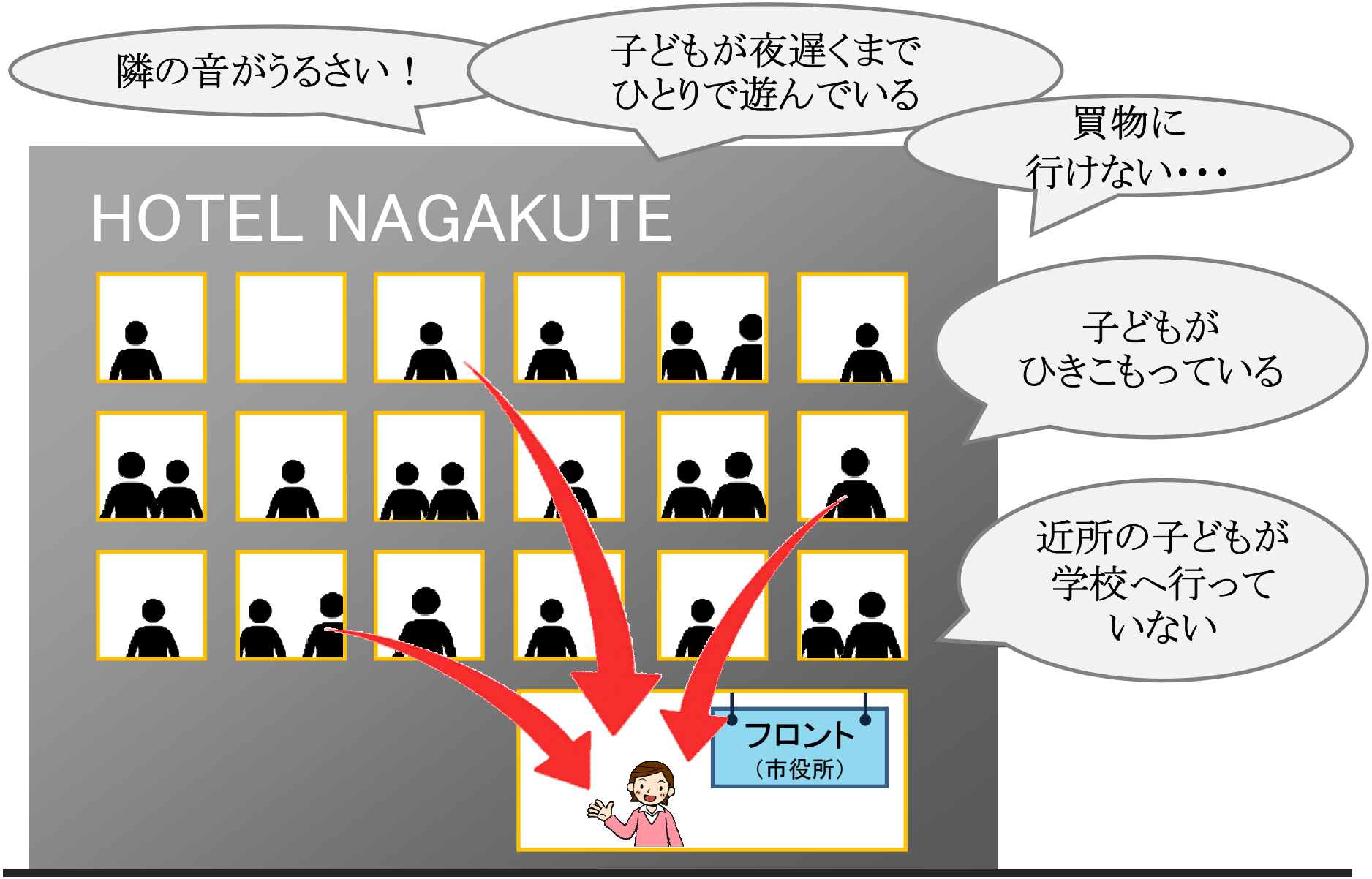
若いまちと言われる本市でも１年間に数件の孤立死が発生

↓

今後の高齢化の進展に伴って、さらに孤独死の増加が予測される！

資料：平成25年6月30日　中日新聞記事

今後の課題


隣の音がうるさい！
子どもが夜遅くまで
ひとりで遊んでいる
買物に
行けない・・・
HOTEL NAGAKUTE
子どもが
ひきこもっている
近所の子どもが
学校へ行って
いない
フロント
（市役所）

３．課題に対応したまちづくり

日本が抱える4つの課題

将来も住みよい長久手であるためには、乗り越える必要がある

高齢化

2050年
65歳以上　40%
うち75歳以上　25%
団塊Jr.が高齢者の
仲間入り

大災害

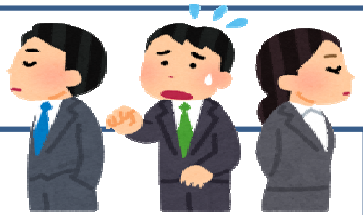
2050年までに
南海トラフ大地震は、
80%の確率で来る

人口減少

2050年頃、
人口は3,000万人以上減り
1億人を割る
2065年には、8,800万人
うち4割が高齢者

社会的孤立

いじめ、ひきこもり、虐待、不登校、うつ、認知症、老老介護、自死、
孤立死、独居、DV、育児不安、8050問題



役所の限界

- 公平、平等、説明責任
- 課の中ですら縦割り（個人商店的事務のあり方）
- 社会福祉制度（専門家主体。効率的。制度、前例、規則に沿って当てはめ。義務感。）
- 財政負担の増大（メンテナンス費、扶助費…）

市民の現状

- 地域との関係が希薄な人が多い。
- 困ったことは行政にお任せ?!
- 隣近所とは関係のない赤の他人状態のままで大丈夫？

役所の限界！ 課題を乗り越えるには、地域の力が必要！

～その第一歩は、つながりづくり（助けてと言える関係）～

時間がかかる

市民が知り合う

・あいさつ、声掛け
・行事、計画づくりに参加して顔見知りを増やそう

顔の見えるまちづくり

・地域内分権
（小単位のまちづくり）
・縦割りの脱却
・地域福祉へ
（地域住民主体。
義務感ではなく、達成感）

時間をかける

役割のあるまちへ

寝たきり、認知症にならず元気でいるために

・人生100年時代
・「きょうよう」と「きょういく」
・市民でできることは、市民でやる。

「長久手市みんなでつくるまち条例」ができました

条例をつくる市民と職員の対話の中から生まれた
♪ まちうた「さかそう ながくて じちのはな」 ♪

♪ 会話・対話を繰り返す ♪ 回り道 ♪ やってみる ♪ それぞれの価値を認め合う ♪
♪ 聞く耳持つこと大切 ♪ 自分がまちにできること ♪ 明日の市民に渡すため♪

わずらわしいまちづくり　でも　人が育つ　人を育てる

▶ みんなでつくるまち条例の制定（平成30年7月施行）

まちづくりの基本原則

- 情報共有
- 市民参加
- 協　働

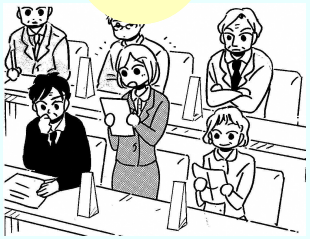
まちづくりの担い手の役割

市 民

「自分たちのまちのことは、自分たちで考え実践しよう」という気持ちを持ち、協力して積極的にまちづくりに取り組みます。

対話し、協力し合って、まちづくりに取り組もう！

議 会



市の仕事が適正に行われているかをチェックし、まちづくりの重要なことについて、話し合い決定します。

市（市長、職員）

誰もが暮らしやすい魅力あるまちづくりのため、市民の意見を反映した計画を立て、事業を実行するとともに、市民の活動を支えます。

▶ あいさつ運動

・笑顔であいさつ
・目を見て話を聞く
・言葉遣い

認知症対応マニュアルと一緒

↓

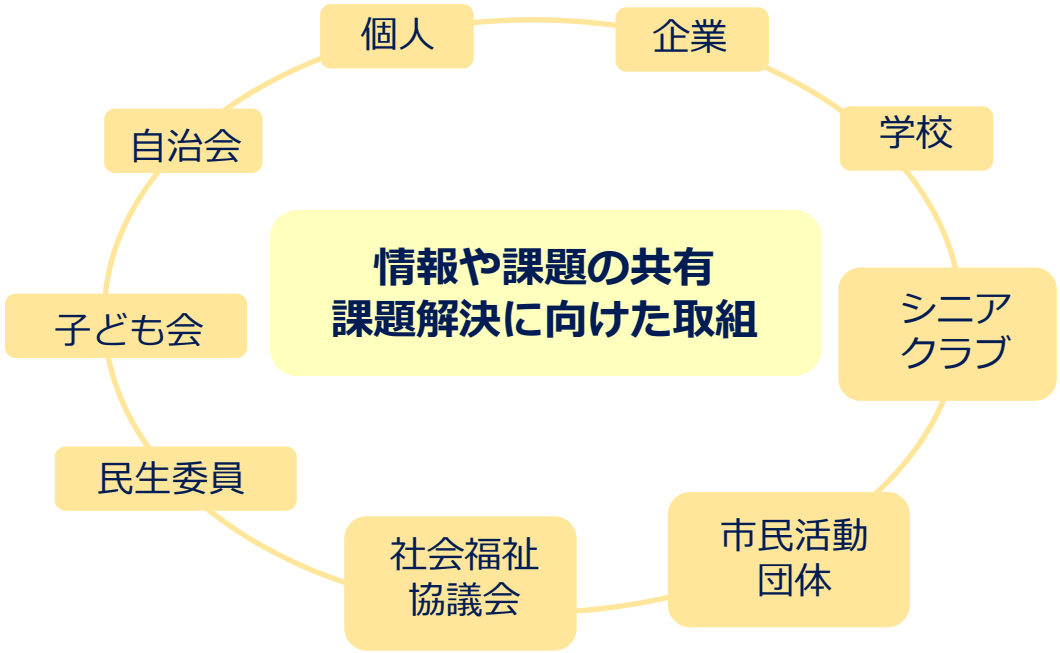
話をすることで課題が見つかる。
まずは知り合うこと！

長久手市はあいさつ運動に取組んでいます

まちづくり、まずは笑顔でこんにちは

▶ 小学校区単位のまちづくり組織・地域拠点づくり

まちづくり組織のイメージ

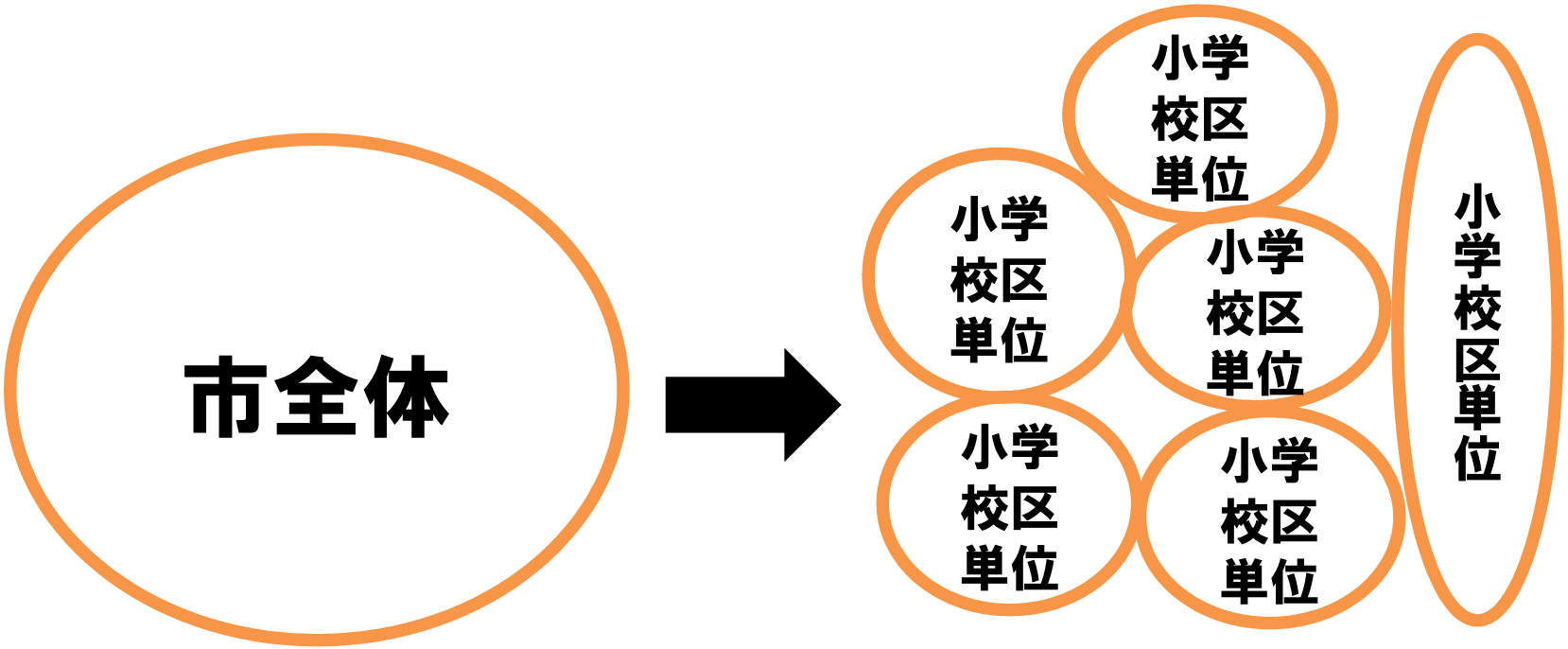


※現在、6小学校区のうち、2小学校区で設置。

地域拠点
＝地域共生ステーション

※現在、6小学校区のうち、4小学校区で設置。

課題に対応するためのまちづくり



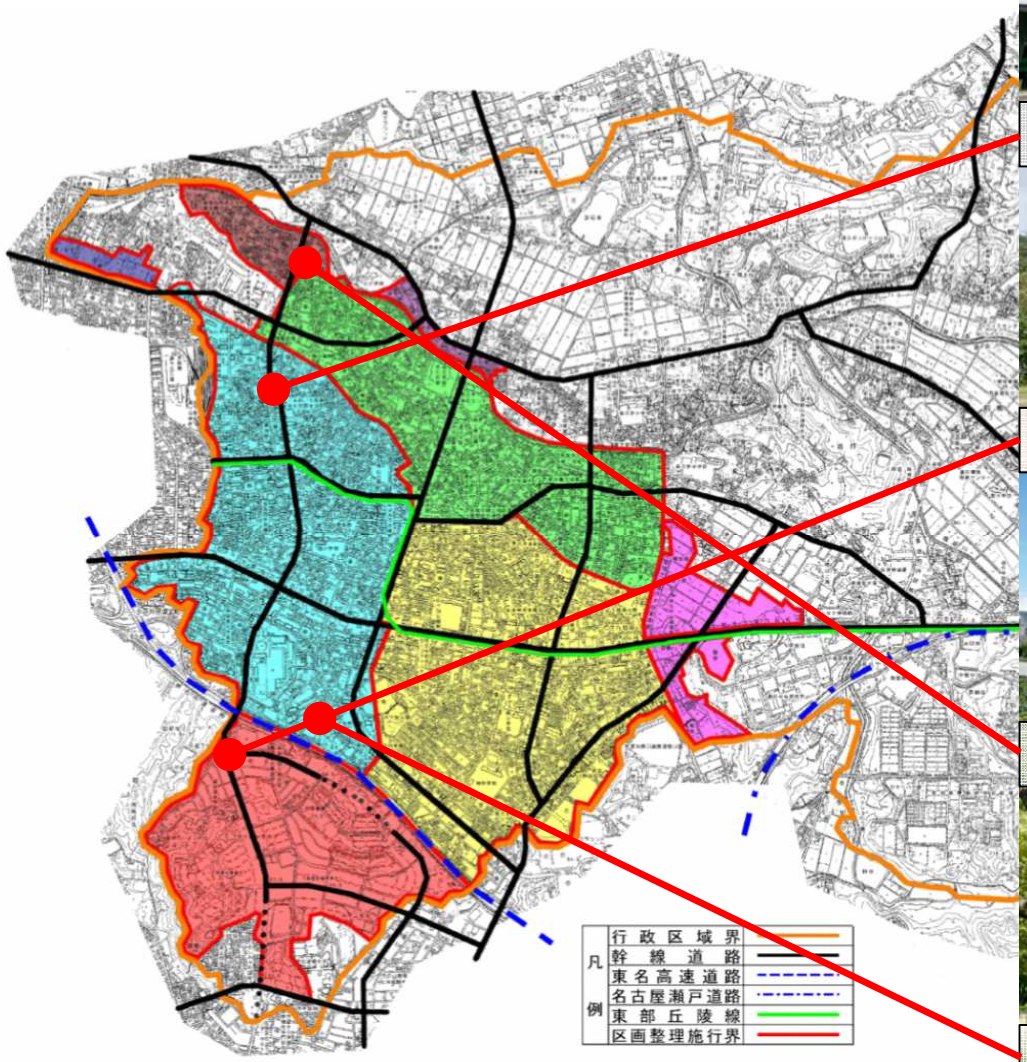
・画一的に捉えてしまう
・個々の問題に対応できない
・顔の見えない関係
　＝言動に責任がない

地域の課題は地域で解決

・一人ひとりに寄り添うことができる
・顔の見える関係
　＝言動に責任が生まれる

課題に対応するためのまちづくり

各小学校区の共生ステーション



西小校区共生ステーション（H25.11～）

市が洞小校区共生ステーション（H29.11～）

北小校区共生ステーション（R2.4～）

南小校区共生ステーション（R2.9～）

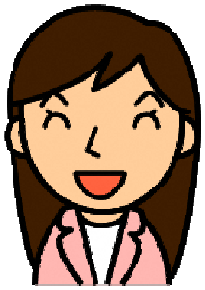
課題に対応するためのまちづくり

西小校区共生ステーションの風景

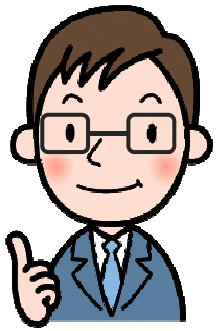
課題に対応するためのまちづくり

西小校区共生ステーションの風景

R3年度～　市長直轄組織 地域共生推進課

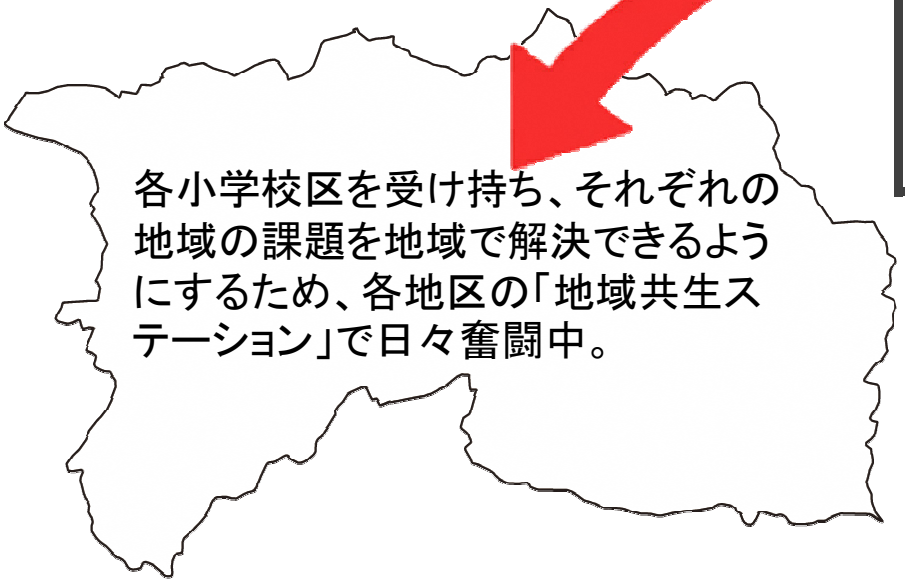


地域共生推進監
（厚生労働省派遣）



次長兼課長

地域共生担当（主幹・課長補佐）



地域共生推進係

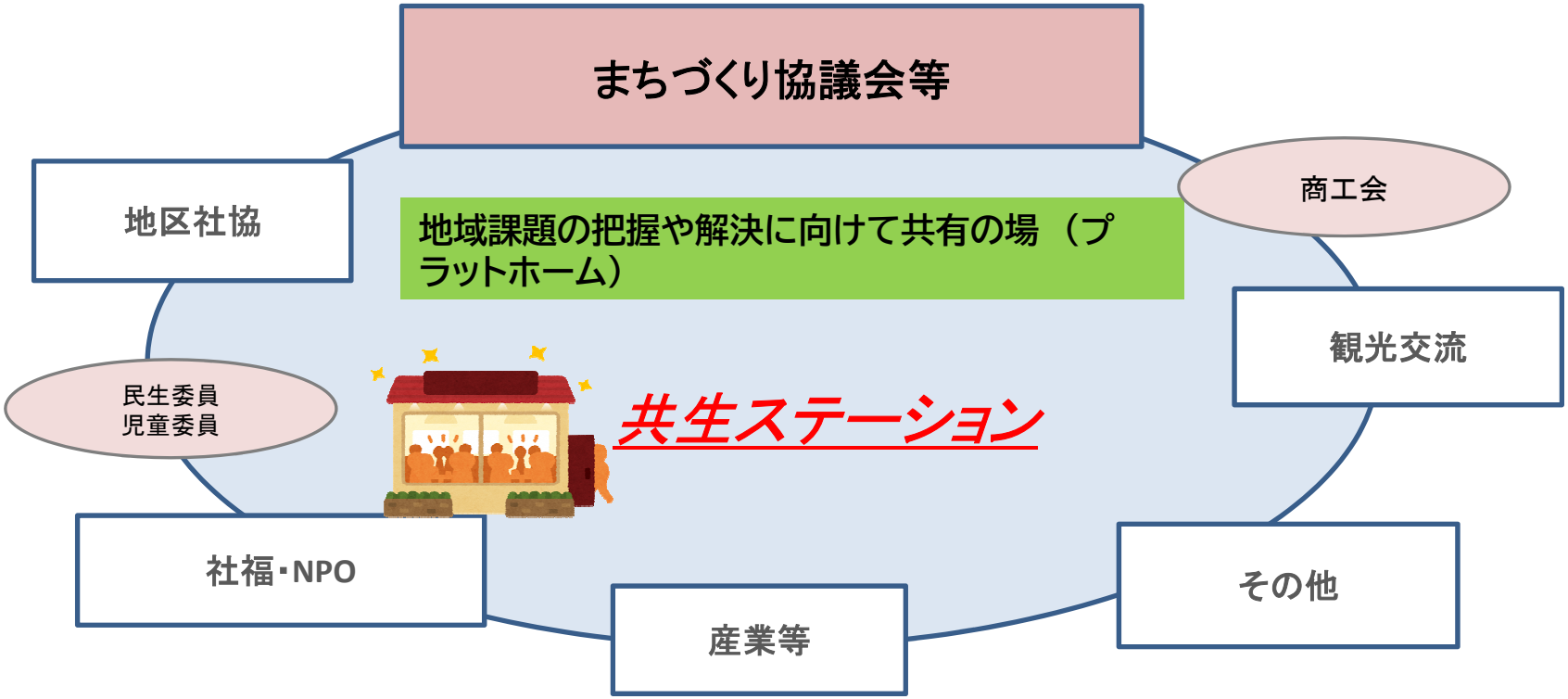
- 地域福祉計画
- 相談支援包括化推進事業
- 市民相談
- 消費生活センター

R3年度～　市長直轄組織 地域共生推進課

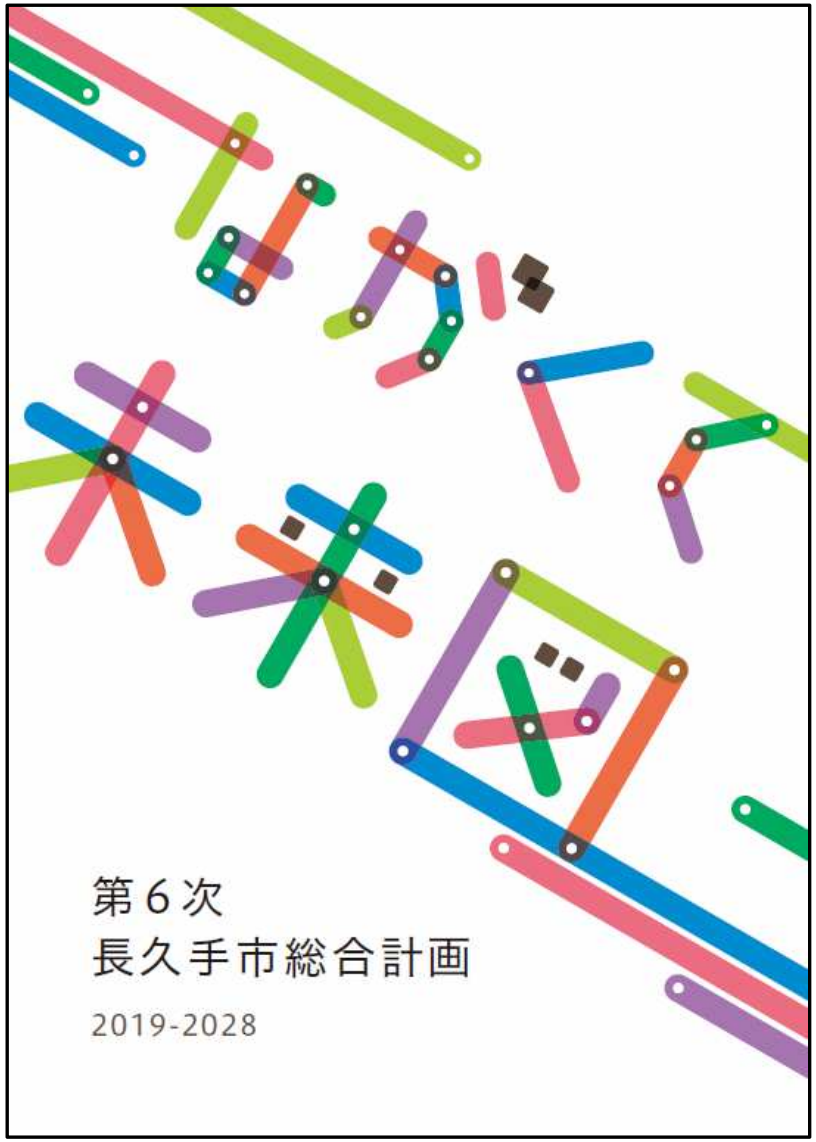
地域共生担当　　CSW

・住民同士の顔の見える関係性の育成支援。

地域とともに考える「調整役」



▶ ながくて未来図（第6次総合計画）の策定



長久手市が**目指す10年後の姿**やそれを**実現するための取組**を示したまちづくりの指針となる計画。

《計画期間》

2019年度～2028年度

ながくて未来図の策定過程

多くの市民のみなさんとともに

ながくて未来図の構成

基本構想

将来像

幸せが実感できる 共生のまち 長久手
～そして、物語が生まれる～

基本目標

- 人づくり　「やってみたい」でつながるまち
- 子ども　子どもが元気に育つまち
- 自然環境　みんなで未来へつなぐ緑はまちの宝物
- 生活　誰もがいきいきと安心して暮らせるまち
- 交流　いつでも どこでも 誰とでも広がる交流の輪
- 都市経営　あえて歩いてみたくなるまち
- 市政運営　市民から信頼される市政の運営

政策

- 人づくり
  - 1 地域共生を支える人づくり P7
  - 2 「やってみたい」が実現できる仕組みづくり P7
- 子ども
  - 1 妊娠から出産・子育てまでの切れ目のない支援 P8
  - 2 子どもを通じて育て合い育ち合うまちづくり P8
  - 3 子どもの健やかな成長を支える環境の整備 P8
- 自然環境
  - 1 万博理念を継承した自然との共生 P9
  - 2 集あるくらしの推進 P9
  - 3 地球にやさしい持続可能な社会の構築 P9
- 生活
  - 1 住み慣れた場所で安心して暮らすことができる地域づくり P10
  - 2 地域の課題をみんなで解決 P10
  - 3 いくつになっても元気でいきいきと輝けるくらしの推進 P10
- 交流
  - 1 まちの資源を生かした市民同士の交流の促進 P11
  - 2 観光交流まちづくりの推進 P11
- 都市経営
  - 1 外出しやすい環境の整備 P12
  - 2 暮らして心地よい生活環境の形成 P12
- 市政運営
  - 1 効果的かつ効率的な市政運営 P13
  - 2 柔軟な市政に向けた仕組みづくり P13

基本計画

施策

- 人づくり
  - 1 地域の担い手づくりの推進
  - 2 地域における活動の場の整備と活用
  - 3 市民活動や地域活動に参加しやすい環境づくり
- 人づくり
  - 1 高齢者に役割と居場所があるまちづくり
  - 2 若者の担い手を支える仕組みづくり
  - 3 誰もが活躍できる地域づくり
- 子ども
  - 1 子どもたち一人ひとりに応じた支援体制の推進
  - 2 安心して活躍できる環境の充実
  - 3 子育て情報の整理と提供
- 子ども
  - 1 地域の子育てネットワークづくりの推進
  - 2 身近な地域で子育てしやすい環境づくり
- 子ども
  - 1 子どもが主体的に学ぶ機会の創出
  - 2 安心して子どもが過ごせる場の整備
- 自然環境
  - 1 豊かな自然環境の保全・活用
  - 2 自然に愛着を持つ地域づくりの推進
  - 3 まちの緑の創出
  - 4 水辺に親しめる環境の整備
- 自然環境
  - 1 農の活性化に向けた支援
  - 2 農の多様な担い手の育成
- 自然環境
  - 1 くらしの低炭素化の推進
  - 2 ごみの減量化・資源化
- 生活
  - 1 くらしを支える生活基盤の充実
  - 2 地域と一体となった防災力の向上
  - 3 交通安全・防犯の推進
- 生活
  - 1 市民による助け合い・支え合いの地域づくりの推進
  - 2 市民が気軽に身近で相談できる場づくり
- 生活
  - 1 市民の健康づくり
  - 2 介護予防の推進
  - 3 健康づくりの環境の整備
- 交流
  - 1 歴史の次世代への継承
  - 2 文化芸術による交流
  - 3 スポーツを楽しむ環境の整備
- 交流
  - 1 観光交流スタイルの確立
  - 2 魅力が広がる情報発信
- 都市経営
  - 1 公共交通の利便性の向上
  - 2 安心して移動できる道路の整備
- 都市経営
  - 1 リニモ沿線の市街地整備
  - 2 都市基盤施設の充実
  - 3 良好な住環境の形成
- 市政運営
  - 1 将来を見据えた財政運営と公共施設の計画的な管理
  - 2 他自治体との連携や民間事業者の活力導入
  - 3 行政情報の適切な管理と活用
- 市政運営
  - 1 市民ニーズへの対応

ながくて未来図のポイント

1. 2050年という長期を見据え、市民と行政が協働する**「市民主体のまちづくり」の実現に向けた第一歩となる計画**として策定

2. 10年後の目指すまちの姿を分野ごとに**７つの物語形式**でまとめる

3. 10年後の目指すまちの姿を実現するために、**市民が取り組む内容をまとめた「市民まちづくり計画」**を策定

課題に対応するためのまちづくり

ポイント③　市民が取り組む「市民まちづくり計画」を策定

課題に対応するためのまちづくり

ポイント③　市民が取り組む「市民まちづくり計画」を策定

目指すまちの姿「ながくて未来図」

2019年度から10年間のまちづくりの指針となる第6次総合計画（愛称：ながくて未来図）。長久手に関わる人すべてが、目指すべき未来を共有する大切な計画。長久手市では、この大切な計画を、約2年かけて市民のみんなでつくってきました。

「ながくて未来図」では、まち全体の将来像として、「幸せが実感できる　共生のまち　長久手　～そして、物語が生まれる～」を掲げ、さらに、分野ごとの目指す姿「基本目標」、基本目標実現のためにすべきこと「政策」、政策実現のための手段「施策」を位置づけています。
また、長期を見据え、行政主導のまちづくりから、市民と行政が協働する「市民主体のまちづくり」への転換を目指し、「2050年に向け、市民主体のまちづくり文化の種を蒔こう！」を趣旨として策定したことが、この「ながくて未来図」の大きな特徴です。

ながくて未来図

将来像

幸せが実感できる 共生の　まち 長久手　～そして、物語が生まれる～

基本目標

- 人づくり：「やってみたい」でつながるまち
- 子ども：子どもが元気に育つまち
- 自然環境：みんなで未来へつなぐ緑はまちの宝物
- 生活：誰もがいきいきと安心して暮らせるまち
- 交流：いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪
- 都市経営：あえて歩いて みたくなるまち

政策

- 地域共生を支える人づくり
- 「やってみたい」が実現できる仕組みづくり
- 妊娠から出産・子育てまでの切れ目のない支援
- 子どもを通じて育て合い育ち合うまちづくり
- 子どもの健やかな成長を支える環境の整備
- 万博理念を継承した自然との共生
- 農あるくらしの推進
- 地球にやさしい持続可能な社会の構築
- 住み慣れた場所で安心して暮らすことができる地域づくり
- 地域の課題をみんなで解決
- いくつになっても元気でいきいきと輝けるくらしの推進
- まちの資源を生かした市民同士の交流の促進
- 観光交流まちづくりの推進
- 外出しやすい環境の整備
- 暮らして心地よい生活環境の形成

施策　市民アクション

- 若者の想いを支える仕組みづくり
- 市民アクション①（P5~6）
- 地域の子育てネットワークづくりの推進
- 市民アクション②（P7~8）
- 市民アクション③（P9~10）
- 豊かな自然環境の保全・活用
- 市民アクション④（P11~12）
- 農の多様な担い手の育成
- 市民アクション⑤（P13~14）
- 市民による助け合い・支え合いの地域づくりの推進
- 市民アクション⑥（P15~16）
- 市民アクション⑦（P17~18）
- 市民アクション⑧（P19~20）
- 魅力が広がる情報発信
- 市民アクション⑨（P21~22）
- 公共交通の利便性の向上
- 市民アクション⑩（P23~24）

市民がまちにできること

市民主体のまちづくり？
難しそうだけど、自分がワクワクできること、
何か役に立てることがあればチャレンジしてみたい。

そうして集まったメンバーが、それぞれがしたいこと・できることを考え、仲間をつくり、目指す未来に向かって市民で取り組みたいこと（＝市民アクション）を考えてきました。その過程で生まれた10の市民アクションをまとめたのが、「市民まちづくり計画」です。

今は、まだ10の市民アクションしか載っていませんが、長久手には既に様々な活動を行っている方達がたくさんいます。
市民によるまちづくりの先輩にも協力をしてもらいながら、この計画を育てていく、そして、この計画をきっかけに、気軽にまちに関わる「まちづくりの仲間」がどんどん増えていくこと。
そんな想いを込めて、「市民まちづくり計画」は、生まれました。

01　02

課題に対応するためのまちづくり

ポイント③　市民が取り組む「市民まちづくり計画」を策定

学生の知識や特技を活かし、地域課題を解決する仕組みをつくる

1 チーム名

ボクラモ

チームの目指す姿 → 「やってみたい」が実現できる仕組みづくり

学生の「やってみたい」×地域の「困った」

さまざまな分野の学生たちが、キャンパスを飛び出し、ここ長久手をフィールドに、学んだ知識を生かした「やってみたい」を実践し、まちの困ったを解決!!

チーム「ボクラモ」は、学生の「やってみたい」と地域課題をマッチングする仕組みを作ることにより、学生が活躍できる場を増やし、地域とつなぎます!!

あんなことやこんなこと　team member interview

チームのみんなに聞いてみました　— チームのみんなの物語 —

Q.この市民アクションに込めた思いを教えてください

まちづくりの現場に学生が求められてる

名古屋学芸大学3年　秋山 隼大 さん

秋山さん　長久手にはいろんな知識を持った学生がたくさんいるのにその知識を生かせる舞台が全然ない！という僕たち学生の普段の悩みから立ち上げました。自分の周りにも学びを生かした活動がしたい！っていう想いを抱いている友達がたくさんいます。例えば、「街中で個展を開きたい」とか「周辺の学校と連携して日本一の学生音楽フェスをやりたい」とか「学生だけでお店を作りたい」とか。それ本当にできるの!? って言うものが多いです(笑)。でも案外やってみればできちゃうこともあります。こういう挑戦ができるのも学生の強みだと思います。しかもそういった学生のやりたいこととか学生が普段学んでることって、とってもまちに需要があるんですよ!!

Q.活動に参加していて何か気づいたことはありますか?

こんなに学生がいるのに…?

名古屋学芸大学3年　高木 雅哉さん

高木さん　自分の周りにはこんなに面白い仲間がいたんだなと思いました(笑)。ボクラモがきっかけで他大学の人とも仲良くなりました。今では月に一回集まってご飯会も開いてます。活動を通して、このまちには多くの学生がまちの活性化を促す可能性を秘めていることを知りました。長久手にはこんなに学生がいるのに力を持て余す学生がいるのはもったいない！ 今後はそんな学生たちが活躍できる舞台を作り上げたいです。

これまでの取り組み

今までにない新しい防犯教室「マチを守れ!カラーバン」を学生の力で企画・運営

小中学生の中で大流行中のテレビゲームを模したアクティブな防犯教室を開催。真っ白な布をインクまみれにし、自分だけのオリジナル防犯ポスターが完成。心理学、デザイン、幼児保育を学ぶ計11人の学生を中心に企画、運営をしました。

【ここが POINT】

とにかく沢山の人に“想い”を伝え、他団体とのコラボで企画を実現！

「こんなことしてみたい!」といろいろな人に想いを伝えると、「それならこの場所ならできるんじゃない?」「この人に頼んでみるといいよ!」と、まちのキーマンを紹介してくれました。今回のイベントは、西小校区まちづくり協議会のみなさんの協力で実現できました。

これからのアクション

学生のネットワークづくり

●長久手市内または周辺の学生がつながるネットワーク「ボクラモ実行委員会」を立ち上げ、学生のやりたいことと地域の課題をマッチングする仕組みづくりを行います。

※「ボクラモ」というチーム名には、「僕らも!まちの一員」という意味が込められています。

チームからのメッセージ

「学びを生かす場所が欲しい」
「このまちでこんなことやってみたい」
そんな学生の声に応えたい。

「様々な学生たちが集うイベントを開きたい」「大きなライブがしたい」「月に一回学生だけのお店を開きたい」「学生時代に何か功績を残したい」…あなたが密かに抱いている「やってみたい」が、まちを楽しくする種になる。ボクラモなら実現できるかもしれません。新たな仲間、協力団体大募集!

道具は
すると
おおぜいが
集まり
うまくいかないと
あるほど
いろんな人に
役割が
うまれる

ご清聴ありがとうございました